



筑波山地域を日本ジオパークに！
いしおかの大地の物語④

眠る竜、波洗う八郷の海

八郷盆地を囲む大きな湾

日本列島ができた！

新生代（6500万年）になると、日本列島は大陸の縁から離れて大きく南東に移動し、日本海が開くという一大事が起ります。大陸の縁に長く連なっていた付加帯の地層は大きく変形し、断層でちぎれ、新たに起こった激しい火山活動により現在の日本列島の原型が作られます。1600万年前には現在の火山分布地より海側の太子町や銚子市などでも火山活動があったことがうかがえます。当時の日本列島は現在とは全く異なる状況に置かれていました。

この頃の地層は筑波山地域にはなく、土浦市新治地域などに安山岩の岩脈が見られる程度。日本列島の屋台骨を作った竜はその身を刻まれ、もたえながらも今の日本列島を作り上げ、今は静かに眠りについています。



▲八郷盆地北東側の丘陵を作る地層。目立つ縞模様は潮流で運ばれた砂が作り、傾きが流れた方向を示しています。この写真では右側から左側に潮流があることがうかがえます。（写真①）

時は流れて、現在とさほど変わらない山地ができていた約30万年前、温かい時代を地球が迎えました。大きく海がせり上がって筑波山の懐深くまで海が入り込み、山から流れ出た砂粒は、潮の流れで運ばれて厚い砂の層を堆積させます。宇治会や瓦谷では、その砂の層が作る大きな斜めの縞模様が観察できます。（写真①）

水戸市西部から笠間市にかけての友部丘陵にも同じ時代の地層が見られます。この地層は「友



矢野徳也
（自然公園指導員）
自然環境の調査や、学校などでの環境教育を積極的に活動している。

部層」と名付けられています。太平洋につながる友部層の海は八郷盆地で大きな湾となり山並みの出入りを波が洗い、その出口には龍神山が島として浮かんでいたと考えられます。

氷河期が来ると海は退きます。高い山や南極北極に雪や水となった水がどんどん溜まるためです。地球の気温の上下に従って、海面も上下します。次に海がやってきたのは13万年ほど前でした。関東平野に大きく広がった海は「古東京湾」と呼ばれています。再び龍神山の麓を海が洗います。関東平野に広がる台地の地形は、この海の底にできた地層が作っています。このときは八郷盆地には海が入らず、湖や湿地だったようです。

次回、地層がもたらす恵みを紹介します。

広報

書籍販売

記念誌と広報紙からみる、
まちの歴史



市制施行50周年記念誌
『石岡の50年 ときの鼓動』
価格 3,000円

平成17年の合併以前の旧石岡市の記念誌「ときの鼓動」と旧八郷町の広報紙のバックナンバー「広報やさとPDF版CD-ROM」を販売しています。

終戦、復興、そして高度経済成長によって発展していくまちの様子が、記録されています。

広報やさとのバックナンバーはホームページから試し読みができます。

販売場所

- ・市役所秘書広聴課
- ・八郷笠間支所市民窓口課

問い合わせ

秘書広聴課
☎23・1111
（内線213）



PDF版CD-ROM

『広報やさと（昭和編・平成編）』
昭和編（昭和30年7月号～63年12月号）
平成編・補追版（平成元年1月号～17年9月号）
価格各1,000円